

かほく市史編さん調査概報

新発見！市内のお宝 No. 3

森城跡の表採遺物

かほく市の森の八幡神社がある丘陵に位置する「森城跡」は、石川県教育委員会が調査した『石川県中世城館跡調査報告書Ⅰ(加賀Ⅰ・能登Ⅱ)』でも報告されており、中世の城館跡として知られています。

城跡としての遺構をみると、八幡神社の社殿がある山頂には土塁の痕跡が見られます。また丘陵斜面に平坦面があり、曲輪(くるわ)や平坦地の残欠とみられる箇所も確認できます。

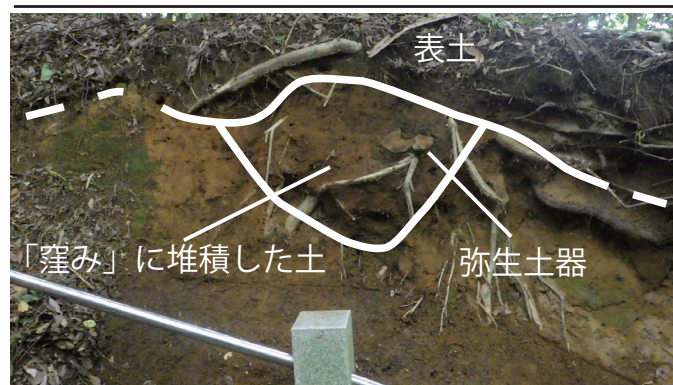
このように、これまで「森城跡」は、中世の遺跡であると認識されてきましたが、市史編さん調査を契機に、弥生時代終わり頃にも集落が存在していた可能性が新たに分かってきました。

今回、新たに確認したの

は、弥生土器と遺構(窪み)です。場所は、山頂の八幡神社へ向かう参道の脇になります。長年、参道の脇が風雨でさらされたため、弥生土器が露出したものとみられ、土器の表採時に、周囲を掃除したところ、遺構として「窪み」を土層断面で確認しました。

また、森城跡の周囲の弥生時代後期から終わり頃の遺跡を見ると、上山田貝塚(丘陵の上の芝生広場の下)や鉢伏茶臼山遺跡、気屋遺跡などがあり、丘陵や小高い場所に立地していることなどが共通していることが伺えます。

気屋や鉢伏、上山田、森などの一帯の地域の歴史を知るうえで、貴重な発見といえます。

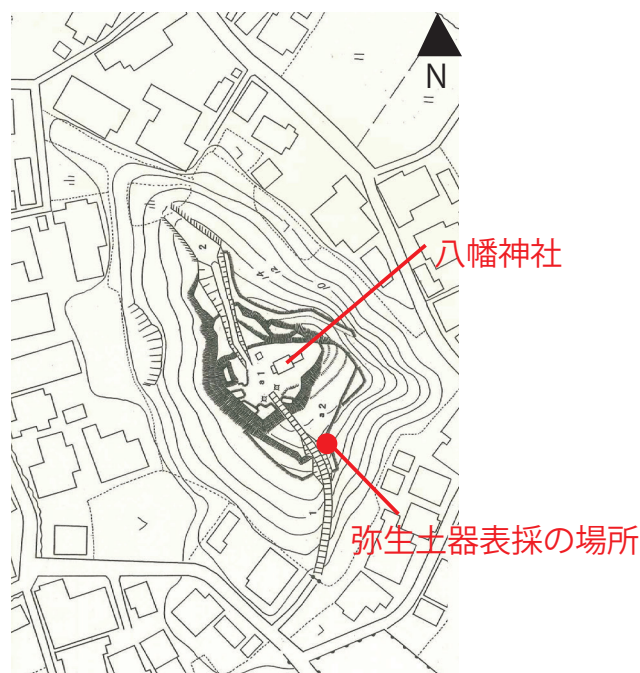


確認した参道の脇の状況
写真の中央が確認した遺構(窪み)



表採した弥生土器片

土器観察から弥生時代
終わり頃の壺と甕の底
部で、すべて上記写真
の「窪み」から表採



森城跡の縄張図と遺物表採した場所

石川県教育委員会 2002『石川県中世城館跡調査報告書Ⅰ(加賀Ⅰ・能登Ⅱ)』
より佐伯 哲也氏が縄張図作成